



『新生児集中ケアハンドブック』

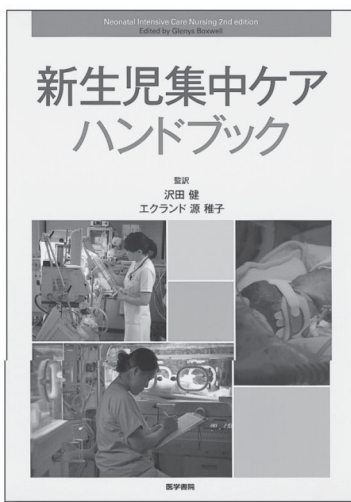
評者・**滋田 泰子** 日本赤十字社医療センター NICU 看護師長、
新生児集中ケア認定看護師

皆さんは新生児学を学ぶとき、どのようなテキストや参考書を手にするだろうか。私は助産師学生の頃から医師によって書かれた新生児学の入門書をバイブルにして育ち、新生児集中ケア認定看護師となった今でも、この本を基本的な必読書として紹介してきた。

しかし、このたび英国の新生児看護領域でもっとも信頼できるテキストといわれ、すでに世界各国の教育現場で実際に活用されている『新生児集中ケアハンドブック』が翻訳された。このハンドブックは、なにより「看護職によって看護職のために書かれたテキストである」ということが特徴だ。新生児の解

剖・生理学的な特徴や新生児特有の疾患に関する病態生理、蘇生や出生後の一般的な管理だけではなく、看護職ならではの視点が記されている。たとえば、「エビデンスに基づく新生児看護の実践」「診断や治療における処置」「NICUにおける痛みとその管理」「新生児の薬物療法」「新生児の麻酔や新生児外科」などは、最新のエビデンスによって裏付けられた管理方法や看護の役割が紹介されており、臨床現場で実際に看護提供する際にすぐにでも活用できる。また、「NICUにおける死別」「倫理と新生児看護」などは、ホリスティックな看護の提供や倫理的感能力を磨くためにチームで共有すべき内容である。

物言わぬ新生児の 気持ちを理解するために



Glenys Boxwell 原著編集
沢田 健／エクランド 源 稚子 監訳
定価 7140 円(本体 6800 円+税 5%)
B5 判／医学書院／2013 年

このハンドブックの「NICUにおける痛みとその管理」の章では「新生児の痛み」について記されている。NICU だけではなく産科でも採血検査などの場面で「新生児の痛み」に遭遇するだろう。皆さんは採血を実施した際の新生児の反応にどれだけ着目し、アセスメントしているだろうか。新生児の神経系は髄鞘化が不完全なため、痛みを表出する能力が低いといわれている。しかし、一方で、新生児の神経系は痛み刺激を伝達、知覚、反応、記憶する能力があり、感覚処理上、成人よりも大きく長い痛みを感じているといわれる。つまり、新生児は反応

が乏しくても強く痛みを感じており、バイタルサインや皮膚色、末梢冷感などの自律神経系の変化、眉の間や鼻根部、下眼瞼や額によせる皺や閉眼の具合など、表情でも必死に痛みを伝えようとしている。そのため、アセスメントツールなどを活用した痛みの評価や積極的な痛みの管理が必要である。

このように、物言わぬ新生児を対象とすることこそ、正しい知識を理解しアセスメントすること、真摯な態度でエビデンスに基づいたケアを提供することが重要である。看護の視点から、今一度新生児を正しく理解するためのテキストとして、ぜひおすすめしたい 1 冊である。